

夏季手当交渉 最新情報はこちらから!



本部ホームページ
2022夏季手当コーナー

JR労働者の力をあわせ 要求満額を勝ち取ろう!

奮闘してきた社員の生活を保障する夏季手当を!

本部申25号 2022年度夏季手当に関する申し入れ 3.0ヶ月分を要求

中央本部は5月16日、基準内賃金の3.0ヶ月分の支払いを求め、申25号・2022年度夏季手当に関する申し入れを提出しました。赤字を理由に定期昇給を2係数とされたのははじめ、収入減と支出増で生活が厳しさを増す中でも会社の発展に向けて全力を尽くしてきた社員に対して、責任を持って報いるよう会社側に求めます。

昨年の賃金改定は、所定昇給額に相当する4係数ではなく2係数で定期昇給が実施されました。本来得られていたはずの水準よりも低い賃金で、それでも私たちはこの1年間頑張ってきました。昨年夏は夏季手当・年末手当とも2カ月分の年間4カ月で、警沢や貯蓄に回す余裕どころか、ローンの返済や子供の学費の支払い、生活水準の維持さえ厳しいという声が聞かれます。

食料品・光熱水費、生活必需品を含め物価上昇が続いています。健康保険負担割合0.5%上昇、介護保険費用0.05%上昇など、様々な面で負担が増える一方の中で社員は夏季

手当に期待をしています。会社を支える社員が安心・安定した生活を送れることが、より良い業務を行うために必要な条件です。4000億円のV字回復に社員に報い黒字化実現を

JR東日本の2021年度期末決算は、単体で991億円の赤字でしたが、前年度と比べ4000億円の回復を実現しました。2022年度決算は、更に1300億円を回復し、410億円の黒字と、3期ぶりの黒字化を見込んでいます。足元のご利用状況も回復傾向にあり、GW期間中の新幹線では対前年221%と好調でした。V字回復を実現した社員に報い、社員のモチベーションを高めることが黒字化実現につながります。施策を担い会社を発展社員の努力に応える義務

急激な変化に対応するため、会社は変革2027のスピードアップのために、「多様な働き方の実現」

今回の取り扱いについて支社側は、ワンマンミラーの地上設備が無い箇所からワンマン列車を発生させるために、急遽の取り扱いとして目視により乗降確認を行い発車させたとしました。

その上で、今回は運転士が安全性を高めるために機転をきかせて使用開始前のワンマンミラーを使用したものであり問題は無いとしました。ワンマンミラーが無い



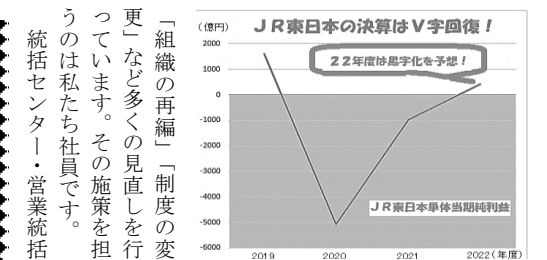
センターの開設や制度の見直しなどにより、これまで2人・3人の社員が行っていた仕事を1人で担う様になるなど、社員の労働力の質は向上しています。社員1人ひとりの生産性が向上し、労働密度が高まることで、労働の量自体も確実に増えています。施策を担い、自らの質を高め続けている社員の努力に報いることが会社の持続的発展に必要です。

組合員・社員の生活を守るために、そして黒字化実現・会社発展のためにも3.0ヶ月分が必要で、JR労働者の力を合わせて職場から要求満額獲得を実現しましょう。

ワンマンミラーの使用開始について支社側は、指示を出すのに地上設備の有無は関係しないとしてきました。

これまででも急遽の取り扱いにより地上設備が無くても目視による運転は可能だったとする支社側に対して交渉団は、乗務員・管理者を含め運輸現場ではそのような認識にはなく、支社側の認識と大きな開きがあることを指摘しました。

また、車種により取扱いに差が生じることなど、安全性に対する懸念を強く訴えました。



地上設備は無くても目視でワンマン運転可能

新潟地本は5月17日、申14号「鶴岡駅において使用開始前のワンマンミラーを使用した事象」に関する申し入れの団体交渉を行いました。羽越本線の鶴岡駅で、使用開始前のワンマンミラーを使用しワンマン列車を発生させた事象に関して、安全を守る観点から支社の見解と対策を求めて交渉を行いました。

申14号団体交渉を終了

組合員・社員の生活を守るために、そして黒字化実現・会社発展のためにも3.0ヶ月分が必要で、JR労働者の力を合わせて職場から要求満額獲得を実現しましょう。

有無を知っていたのかを質すと、輸送指令が知っているとは限らないとした上で、指示を出すのに地上設備の有無は関係しないとしてきました。